

# 那珂市議会原子力安全対策常任委員会記録

開催日時 令和元年6月17日（月）午前10時

開催場所 那珂市議会全員協議会室

出席委員 委員長 助川 則夫 副委員長 綿引 孝光  
委員 小池 正夫 委員 富山 豪  
委員 花島 進

欠席委員 委員 中崎 政長

職務のため出席した者の職氏名

議長 君嶋 寿男 事務局長 寺山 修一  
事務局次長 飛田 良則 書記 小泉 隼

会議に付した事件

(1) 福島第一原子力発電所の視察研修について

…視察研修について振り返り、今後の研修活動について協議

議事の経過（出席者の発言内容は以下のとおり）

開会（午前10時00分）

委員長 改めまして、おはようございます。

ご多用の中、原子力安全対策常任委員会にご出席をいただきまして大変ご苦労さまでございます。

昨日是那珂市市政施行15周年を記念されて、NHKのラジオ体操のイベントがありましたけれども、1,700名ぐらいのご参加をいただいたようであります。

委員会の委員におかれましても、体調管理には十分注意されまして、議員活動をよろしくお願いいたしたいと思っております。

本日は、先般、原子力施設であります福島第一原子力発電所の視察をしてまいりました、その関係の委員会ということでご審議をいただくことになっておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

開会前にご連絡をいたします。会議は公開しており、傍聴可能といたします。また、会議の映像を庁舎内のテレビに放送します。会議内での発言は必ずマイクを使用し、質疑・答弁の際は簡潔かつ明瞭にお願いをいたします。

携帯電話をお持ちの方は電源をお切りいただくかマナーモードにさせていただきたいと思っております。

ただいまの出席委員は5名であります。欠席委員は中崎政長委員1名であります。

定足数に達しておりますので、これより原子力安全対策常任委員会を開会いたします。

職務のため、議長及び議会事務局職員が出席をしております。

ここで議長よりご挨拶をお願いいたします。

議長 皆さん、おはようございます。

本日は原子力安全対策常任委員会の皆様方に出席をいただきまして、先日視察をしてきました福島第一原子力発電所の視察について、助川委員長のもとで皆様方の活発なご意見をいただきますことを願いまして挨拶にかえさせていただきます。

ご苦労さまです。

委員長 本委員会の会議事件は、別紙会議次第のとおりであります。

福島第一原子力発電所の視察研修についてを議題といたします。

先日、東日本大震災から8年経過した現状について調査するため、福島第一原子力発電所の視察研修を行いました。

本日は、順次、皆様から感想やご意見をいただき、今回の視察研修についてまとめていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、小池委員からよろしいですか。

率直なご感想、ご意見等ございましたらばお願いいたします。

小池委員 この間、初めて福島第一原子力発電所のほうの見学とか視察をさせていただきまして、近くまで行って初めて見たんですけど、遠くからは見たことあるんですけども、初めて見てびっくりしたのは、やはりあのような惨状になっているということ。

そして、今回の視察に参加させていただいて、非常に意義のあるものだと思っております。もっと違った見方ができるのならば、地元に住んでいる方の意見等々なんかも、ちょっと聞ければいいのかなとか。あとは入ることができないような地域、あそこに警備員が立っていて横には入れない等々のところの場所もたくさんあったようでございまして、そういうところの中もちょっと見ることでしたら見たい、あとはどのような状態になっているのかっていうことも、やはり自分が農業もやっている手前、あの辺がやはり農村地区でもあるということもありまして、いろいろと見たい、聞いてみたいということが多々ありました。

それで、今回の視察を通しまして、改めて原発というものの怖さ、または利便性はたくさんあると思うんですけども、その中でそういうものを改めて認識をさせていただきましたとともに、やはりまた時期を変えて、視察に行く機会があれば見たい。またその経過を見たいと思っております。

以上でございます。

委員長 続きまして、花島委員お願いいたします。

花島委員 私は福島第一原子力発電所については大体どうなっているかっていうのは分かっていたんですけど、見たのは初めてでした。

想像どおりの部分と想像よりはいろいろ除染なんかが進んでいるなど。

線量計を持っていったんですけども、原発の敷地内でも線量の低いところもありました。一方、皆さんもバスの中で案内の方の説明を聞いていたでしょうけど、すごい高いところ

もあって、驚きというか、分かっていたんですけど改めて感じるものがありましたね。

私は放射線作業従事者だったし、放射線発生機器を扱う職場にいたんですけど、あんな高いレベルのところに人が行くなんてことは、まず私の職場では、原子力機構っていう意味じゃなくて、全くないですね。だから、大変なことだなと思いました。

小池委員が原発サイドではなくて周辺のことも見たいと言いましたが、私はどっちかというそっちのほうを見たかったと思っています。

前に、高速道路でずっと行ったときもフレコンバッグがずらりと並んでいるのをあちこちで見まして、原発のすぐ近くはむしろ諦められているっていうか、人が入れない状態になっているっていうことで、多分よくわからないんですよ、入っちゃいけないというだけで。だけど、その周辺見るとフレコンバッグなんかがたくさん積んであるので、多分住民の話なんかも聞けたらと思うんです。

ただ難しいのは、ピックアップ的に1人、2人聞いても偏るかもしれないから、ちょっと難しいですね、企画というかそういうのは。

それから、廃炉資料館は2回目でした。私、行ったのは。

前の回は説明とかなしで見ただけなんですけど、改めて制御コンソールなんかを見ると、こういうのってやっていくのは大変だなと思いましたね。

私も同じように制御コンソールのある装置のところで、制御システムの責任者だったんですけど、もっと小さいんですよ。もっと小さくても大変。

あれだけの大きさになって、何かいろんなことが起きたら何が何だかわからなくなるっていうのは話には聞いているんですけど、本当に思いました。

それと、東電のいろんな説明で福島第一原子力発電所の教訓ということを幾つか並べていましたね。あれは正直言って全然考えが浅いというか、津波の高さを間違えただけの、電源喪失について弱かっただのっていうのは、それはそうだけど、その根源に我々は地下深くのことをわかってないということがあって、それは今も変わらないんですよ。それから、管理能力が十分じゃないっていうことも、これも変わらない。

例えば、全電源喪失なんてほとんど起こり得ないというようなことを昔、班目さんっていう偉い方が言ってたんですよ。今の言い方は間違いでしたね。全電源喪失よりそれ以前の全交流電源喪失、長時間の全交流電源喪失、外側から電気が来なくなるなんてことはまずないんだと、長時間ね。

そういうようなことを言ってたんですよ。それどころか全電源喪失ですからね。

そういういろんなことに備える技術としての備えが全然弱かった。私は能力不足だと思っているんですけど。単にその金を節約したというだけじゃないと思っています。

ということが私の印象で、その辺を考え直してもらわないと何か廃炉にするだけだったらまだいいんですけど、その先のことをやるには、そういう本質に迫った考察が必要かなと改めて感じました。

以上です。

委員長 それでは富山委員、お願いいたします。

富山委員 私も初めて福島第一原子力発電所のほうを視察させていただきました。

改めて、1号機、3号機、4号機で水素爆発が起きて、正直、事務本館なんかがきれいにできている部分を見ると、時間がとまっている部分ともものすごくきれいに進んでいる部分が両方あるなっていうのは見て感じました。

燃料デブリの取り出しも2021年、使用済み燃料も2023年と、これもまた時間がかかるなと、まだまだ先、廃炉に向けては道のりが長いななんていうのはやっぱり本当に感じました。

また、さっきも花島委員が言ったとおり、防護服を着なくてあそこまで近づけるといふ今の感じにも本当にびっくりしたんですが、本当に目に見えない放射能っていうのは、今回測定器を花島委員に見せてもらいながら行きましたが、計器が触れるたびに、放射能ってあるんだなっていうのを感じましたね。

あとびっくりしたのがやっぱり富岡町ですか。まだ帰還した方々が8%って、1,000人に満たないぐらいの方々しかまだ帰れていない現状に、やっぱり原子力っていうのは本当に難しいんだなっていうのはつくづく本当に感じました。

あと、いろんなお話を聞いて、港湾内の汚染物質の濃度とか、安定していて水は漏れていないなんて話は聞きましたけど、それもどこまで大丈夫なのかななんていうのもちょっと、あれだけのタンクなんかを目の当たりにして、果たしてあれを処理するにはいかほどの年月がかかるのかなっていうのは、深く感じた次第です。

以上です。

委員長 綿引副委員長お願いいたします。

副委員長 私も、今回の視察で福島第一原子力発電所に行くのは多分2回目だったと思うんですけど、前回行ったときよりは、ただいま富山委員からもありましたとおり、大分近くまで行けるようになった。

でも行く道すがら、高速道路からも見えましたが、まだ真っ黒い袋の大きいやつが山積みになっている場所なんかも随分見ましたし、まだまだ終息という状況は先だなどいうのを現場を見て痛感をしたところでございます。

廃炉資料館という話がございましたけれども、あそこを結構今回はじっくり視察することができて、その中でちょっと気になったのがいわゆるこの水素爆発の件で、素人なんですけども、水素爆発をもし防ぐことができれば今回の事故もこんなに大事故にはもしかしてならなかったのではないかという印象をちょっと抱きました。

いずれにしましても、こういう事故がまた起きないという保障がないので、今回のこの原子力の問題に関しましては、私どもも真剣に勉強していかなくちゃいけないなというふうに痛感いたしました。

以上です。

委員長 それでは、私も感じた点を申し上げたいと思います。

ちょうど私も1回目は7年ぐらい前、視察にお邪魔した1人なんですけれども、今回、中継の場所でありましたJヴィレッジのところも、ほとんどあそこにおられる方々は作業員の方々ばかりでして、それも防護服をしっかりと装着された方々ばかりの時期でありましたので、今回はその場所におきましては、随分さま変わりしたなという感じは持ちました。

さらにまた、廃炉に向けて今、工事をされておられるわけでありましてけれども、廃炉の年限は30年、40年を要するというような報道がされておられますけれども、これも、果たしてその年限で完全廃炉、そしてまた、住民の皆さん方が安心できるような地域の復興がなるのかということをお考えすると、果たしてその年限で間に合うのかなという感じは持っておる1人でございます。

さらにまた、原子力の事故になりますと、過酷事故という形を起こしてしまいますと、食の風評被害というようなこともありまして、いまだに世界の国では、自由な食の輸入の制限がされておられる国もあるわけでありまして、そういったことをお考えすると、こういった過酷事故が起きると、国全体の問題として、経済的にも大変な負担を強いられるというようなことを実感しておるわけでありまして。

そういうことをお考えすると、今後、最終的には東海第二原子力発電所の再稼働の問題を皆さん方にご判断をいただくことが近づいてきておるとは思いますけれども、それに対応して、我々の適正な判断を委員会として統一した形で、取りまとめができるのかというような、私自身、危惧するわけでありまして、しっかりとその辺の判断につきましても、一つ一つ、この問題に関しましてのさまざまな知識等をできるだけ積み上げていただきまして、最終的には再稼働の可否のご判断をいただくことになるとお思いますので、それに向けましてさらに委員会の審議を深めてまいり覚悟でありますので、委員お一人お一人の、これからもご支援をよろしくお願ひいたしまして、私の感想とさせていただきます。

お一人お一人お伺いしましたけれども、今回の視察研修に関しまして、こここのところはこれから問題点として、委員会として、審議含め、深掘りをしたほうがいいんじゃないかというようなご意見をお持ちの方は、さらに、本日お伺いしたいと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。

花島委員 視察については先ほど言いましたように、周辺の被害状況も見たかったというのがあります。

でもそれは置いておいて、それとは別に最初に私が提案したように、賛成派と反対派の話の聞くと。それもできるだけ感情的じゃない話で話せる方を選んで聞きたいなと思っています。

確かに事故が起きれば大変なありさまなんですけど、起きなければいいと言うのも変な

言い方ですけど、問題ないんだということもあるわけですよ。

そうすると次の問題は、事故は起こりうるのか、起きないのか、あるいはどのぐらい起こりそうなのか、どういうことだったら起こるのか、起こる可能性があるのかということもある程度見えてこない、単に1回の惨状でびっくりしただけで感覚的にだめって、それもだめで、いけないってわけじゃないですけど、最終的な我々の判断を深めるためにはそっちのほうも見ていったほうがいいかなと思います。

委員長 ただいまの花島委員のご意見は、これから進めようとしておりました案件なんですけれども、前回の会議で原発推進派の方、反対派の方、それぞれの方からお話を聞く場を設けるということで決定をさせていただいております。

日程や人選等につきましては、正副委員長にお任せいただいたわけですが、このことについて、特に人選について新たにご意見等がございましたらば、お伺いをさせていただきたいと思いますのでご意見をお願いいたしたいと思います。

どちらでも結構です、賛成派でも反対派でも。

花島委員 反対派については何人もいるんですけど、1人は、ちょっと急に言われて出てこないんですが、すいません、名前が出てこないんですけど、東芝関係の会社で格納容器の設計にかかわった人がいます。名前がぱっと出てこないんですけど。

後藤政志さんという方です。

この方は何ていうか、実際に格納容器を設計した方でして、それから安全工学って言ったらいいんですかね、安全工学っていうより安全学って言ったほうがいいんですかね、そういうことも見識のある方です。

この後藤政志さんが一番いいかなと、1人にすればですね。

地震については先ほど言いましたが、石橋克彦氏というのが一番、私は本人の話を聞いたことはないですが、講演をしている録音を聞いて、非常にもっともなことを言っているということを感じました。

ただし、高齢で遠くの方なので、来てもらえるかどうかはわかりません。

それから、これは後藤さんより有名な方なんですけど、田中光彦さんっていう人です。

この人も日立関係の原子力にかかわった方で、まさに4号機だったか、圧力容器の設計って言ったらいいんですかね、ちょっと製造上のトラブルがありまして、その対応なんかもしたことを本に書いている人です。

今は原子力関係の仕事を直接はしていませんね。

それから最後に、館野淳さんって元中央大学の教授、原研職員です。

この方は私の先輩なんですけど、原研の職員でありまして、化学が専門でしたね。

ただ、原子力については原研という風土で、基礎部門にいる人でも結構関心を持っていろいろ調べたりしているのでそういうことに詳しい方です。

ただし、館野さんは工学的なことについては余り詳しくないです。実際に物をつくって、

大規模なものをつくるという経験がない方なので、耳学問なんですよ。

そういう面ではまさに、まず地震というものが非常に大きな要素ですので、その点では石橋克彦氏。

それから、物、その工学的なシステムとしての安全性っていうことでは後藤政志氏と田中光彦氏が一番おすすめてです。

3番目が、館野淳氏という感じですかね。

以上、私の提案です。

一応4人ですけど、一番、1人まず聞くとしたら後藤政志氏かなと思っています。

委員長 これは、賛成、反対はどちらに。

花島委員 反対ですね。みんな反対の方です。

ただし反対と言っても、館野淳氏は原子力は何が何でも反対という方ではないです。私と同じような感覚で、今の原子力ではだめ、このままではだめだという方ですね。

あと、推進派はなかなか難しいんですけど、もし探せと言われれば一生懸命探します。ある程度まともな、ただ感情的にいけばいいんだっていうんじゃないことを言える人を探せば。

本当に困ったら、前の原子力規制委員長ですかね、田中俊一氏。田中俊一氏は、もともとひたちなか市に住んでいましたから、今もいるかもしれないですね。来やすいかもしれないです。

推進派の意見として出させたら怒るかもしれませんが。

委員長 参考のために、これをお願いした場合にどのぐらいの期間を要しますか、お願いしておいでいただくには。

花島委員 来てくれるまでですか。

後藤さんはそんなにかからないと思いますね。むちゃくちゃ多忙だとは思いません。

必要なら当たってみてもいいですけど。

委員長 そこまではちょっとお待ちください。

ほかにご意見ございましたらば。

お名前じゃなくても結構だと思いますが、人数の件とか。

どちらかというと、賛成の方の人数をある程度、反対の方とバランスを取らせていただいたほうがいいと思ひまして、反対2人ならば賛成2人。

人数も含めてどうですかね、ご意見は。

富山委員 賛成の方のあれが多分わからないんですよ。

賛成って手を振ってやっている方ってあんまり聞かないので、原電に聞けば紹介してくれるとは思ひんですけど。

委員長 小池委員どうですか。

小池委員 何人ずつにしても、どのぐらいの時間なんでしょうね。大体2時間とか3時間です

か。

これ、1人の方がその意見を述べられるような形式でおやりになるんですか。

委員長 その辺のやり方は……

暫時休憩します。

休憩（午前10時27分）

再開（午前10時34分）

委員長 再開をいたします。

委員各位、ご存じだと思いますけれども、昨年11月にとりあえず原子力規制委員会の認可はされたんですよね。

それで既にもう20年のカウントダウンが始まっているわけですよね、稼働しなくても。そうですね。

だからあと何年間か、仮に再稼働して何年か過ぎてから、3年なら3年、原子力規制委員会からのさまざまな、与えられた作業内容を進めて、それが完了した時点から20年じゃなくて、17年になるというようなことだと思うんですけども。

そういったことも含めて、必ずしも20年が再稼働の年限になるということではないだろうと思いますので、当然国のこの工事内容に関しましては、ある程度の年限をかけて整備を進められるわけでしょうから、それに伴った年限を経過した上で、20年マイナスその年限ということで再稼働になるんでしょうけれども、とにかくそういったこともお考えいただきながら、今、花島委員から反対者のお名前までお出しいただきましたけれども、賛成者のほうは、原子力規制委員会の方だとどうしても賛成、反対、両方にとらえられるような部分が出てきますので、しっかりと賛成のお話をさせていただけるような方をお招きして、それでお伺いしながら私どもが判断させていただく委員会の進め方にしていきたいと思うんですけども、この人数はどうでしょうかね。

一日で2人ずつだと4人になっちゃうから無理だよね。2回にあれかな。

お一人ずつというようなことで2回やるとすれば、またお一人ずつというようなことで。

お二人ずつ、反対、賛成の方においでいただいて、お話をいただいて、あとは私どもから意見があったらお出しいただいて、それに対して答弁いただくというようなことで進める形でいかがでしょうかね。

そのような方法しかないような気がするんですけどね。

小池委員 例えば、その説明をしていただいた中で、やはりわからないことがたくさんある中で、やっぱり言われたことに対して質問する時間が長いような感じもするんですよね。

やっぱり聞きたいことはたくさんありますので、ですから納得いくところまで話をされるのかどうかわからないにしても、本当にもう核心に迫るぐらいのところまでの話をいただいて、それで質問して、ある程度私らも思っていることとか、聞きたいことを納得できるようなお答えをいただきたいというところがあります。



質疑応答の時間とかっていうのをやっぱり調整していただいといます。

委員長 時間に関しては、おいでいただく方、相手方にお伺いしながら、それで私どものほうで判断させていただくということでご了解いただければといます。

花島委員 どういう話をしてもらうかなんですけど、以前に市の委員の方に話してもらったときに核分裂連鎖反応がこうでとか、ああいう話を長くやられてもばかばかしいんですよね。

だから、最低限我々はそういうのをみんな勉強しておいてもらって、もし知らなかったら、事前に私がおの分、安全の方じゃなくて基本的なことをお話してもいいですけど、まさにそのホットな議論の中では、余りにもベーシックなことはみんなわかっているという前提で話してもらってという形にしてほしいんです。

そうでないと何か時間をもったいないと思うんですよね。

山下さんは私の前の上司なんですけど、ちょっとあきれました。

よろしくをお願いします。

委員長 わかりました。

そうしますと、進め方に関しましては、人選も含めまして正副委員長と事務局で調整を進めさせていただきますので、その間、花島委員等のお話をお伺いする場合もあるかもしれませんが、そのときはよろしくお願いたしたいといます。

準備が進みましたら再度、会議を開きたいといますので、それで、ご了解をいただきたいといます、いかがでしょうか。

(「はい」と呼ぶ声あり)

委員長 それではそのように決定をさせていただきます。

本日の議題は全部終了いたしました。

以上で、原子力安全対策常任委員会を閉会とさせていただきます。

ご苦労さまでした。

閉会 (午前10時41分)

令和元年 7月 22日

那珂市議会 原子力安全対策常任委員会委員長 助川 則夫